

江戸の記憶を訪ねる
「さいたまの長屋門」

武家の屋敷の門には屋敷を守るために下級武士などが住む長屋が併設されていました。この長屋門は幕藩体制のもと武家の家格により様式が定められていて、町人や村人は造ることが許されていませんでした。

さいたま市内には長屋門が点在しています。先祖から受け継いで住み続ける所有者の人たちが貴重な建物を維持管理しているためです。

さいたま市在住の建築家・植木秀視さんは、長年さいたま市に住んでいましたが、仕事中心の毎日で地元のことに関心を持っていませんでした。見沼田んぼの近くに事務所を兼ねた自宅を構えてからよく散歩をするようになり、古建築が散在していることに気づき、スケッチを重ねて個展まで開きました。すると来場者からも多くの情報提供を得たため、より踏み込んで調査して回りました。

そんな長屋門に魅せられた植木さんがさいたま市内にある長屋門を丹念に調査し、データや建築家としての考察をまとめた一冊が「さいたまの長屋門」です。

調査方法をはじめ、建物の形式や変化、外観の見方、各部の名称、構造、構法など多岐にわたり紹介し、カバーなどのイラストも描いています。思わず江戸時代の趣を訪ねて歩きたくなる一冊です。

「さいたまの長屋門・江戸の記憶を訪ねる」

著 ・ 植木秀視

発行・南風舎 03-3294-9341

